

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	東海道五十三次と駿遠豆の旅籠 ——ホスピタリティでつなぐ世界、日本、静岡				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	松森 奈津子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	松森 奈津子

講演題目	東海道五十三次と駿遠豆の旅籠 ——ホスピタリティでつなぐ世界、日本、静岡
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>東海道五十三次は、京都から東京までの東海道にある 53 の宿場を指す名称である。ときに、大阪までを含めて五十七次とすることもある。すでに奈良時代の律令制度の下でその基盤が形成され、古来ヒト、モノ、情報の移動の中核を担ってきた。とくに江戸時代には、参勤交代制度と歩調を合わせ、五街道の一つとして発達した。静岡県は歴史的に、中東部（駿河）、西部（遠江）、伊豆のいずれの地域も、この五十三次の宿場町として発展してきた。</p> <p>本研究の目的は、東海道五十三次の歴史的展開の中で駿遠豆三国の旅籠を考察し、その意義を明らかにすることにある。東海道五十三次はこれまで主に、歌川広重の浮世絵をはじめ、和歌や俳句など、芸術的、文学的な側面から注目されてきた。そして、これらの作品で知られた風光明媚な場所が観光の呼び水として言及されてきた。これに対して本研究は、古今東西、見知らぬ者（他者、異邦人）に対する言動に影響を与えてきたホスピタリティ（歓待）概念の下に東海道五十三次をとらえなおし、静岡県の宿場町の意義を再検討する。</p> <p>2022 年度は、本研究費採択を機に研究が本格的に始動し、今後の研究の土台を構築することができた。まず、駿遠豆三国における代表的な宿場町を選定し、それぞれについて歴史的経緯を調査した。具体的には、三島、興津、府中、藤枝、掛川、浜松の宿場町について、風土、由来、発展過程、現状をまとめ、古来の文物の流れを追った。その際、授業におけるアクティヴ・ラーニングの一環として学生の参加を得ることで、地域と学生が結びつく機会を提供することができたと考える。</p> <p>今後の課題としては、第一に、これら静岡の宿場町と、東海道五十三次の他の宿場町との比較考察を行うこと、第二に、西洋を中心とする世界のホスピタリティ論、本邦の異人論の文脈に駿遠豆を位置づけることがあげられる。このことを通じて、静岡県の特色と意義を一層明確にすることが見込まれる。</p>